

## ■希少な水鳥の越冬地

志津川湾には毎年オジロワシやオオワシなどの貴重な水鳥が冬を越しにやってきます。その中でも、遠く北方のシベリアから志津川湾へやってくるコクガンは、国の天然記念物と絶滅危惧種（宮城県・環境省：絶滅危惧Ⅱ類）に指定されている希少な水鳥です。コクガンは世界に8,000羽ほどしか生息していないといわれていますが、そのうちの100羽から200羽が毎年志津川湾に冬を越しにやってきます。志津川湾は、波が穏やかな環境や、餌となる海藻や海草を育む藻場が十分にあることなど、コクガンたちが安心して冬を越すことができる場所なのです。



オジロワシ ※2



コクガン ※2



オオワシ ※2



## これからの活動

南三陸町では、「森里海人いのちめぐるまち 南三陸」という将来像を掲げ、自然と共生するまちづくりを進めています。ラムサール条約湿地に登録されることは「ゴール」ではなく「スタート」です。条約の目標である湿地の保全・再生、賢明な利用（ワイズユース）、交流・学習は、南三陸町のまちづくりを後押しするものとなるでしょう。私たちの生活を豊かにする湿地の恵みを未来の世代に残していくために、私たちに何ができるのか、地域全体で考え、行動していくことが大切です。

来月号では、ラムサール条約湿地の登録に向けた歩みや平成31年2月に開催予定のイベントなどについて紹介します。どうぞ期待ください。



8月に開催した幼稚園児対象の磯の観察会の様子 ※3

画像提供 ※1：青木優和 ※2：南三陸ネイチャーセンター友の会 ※3：大學章浩 イラスト：浜口とり

9月現在、ラムサール条約湿地は世界に2,326カ所、日本には50カ所あります。そのうち東北には6カ所、宮城県内には伊豆沼・内沼、<sup>かぶくりぬま</sup>蕪栗沼・<sup>けしよぬま</sup>周辺水田、化女沼の3カ所が登録されています。志津川湾がラムサール条約湿地に登録されると、東北では初の海域でのラムサール条約湿地となります。また、海藻藻場（後述）の貴重さが認められての登録は、国内初となります。



## 志津川湾の自然環境

### ■海の中に広がる海藻の森と海草の草原

暖流と寒流の両方の影響をバランスよく受ける志津川湾では、冷たい海に住む海藻と暖かい海に住む海藻の両方が見られ、現在までに200種以上の海藻が確認されています。また、アマモなどの海草の仲間も確認されています。海草は、陸上の種子植物と同じ仲間、海中で花を咲かせ実をつけます。志津川湾には、多種多様な海藻や海草が作り出す森や草原（藻場）があります。その中でも、冷たい海を代表するコンブ類「マコンブ」と暖かい海を代表するコンブ類「アラメ」の藻場が同じ場所で見られるのは、世界的にも珍しいことなのです。

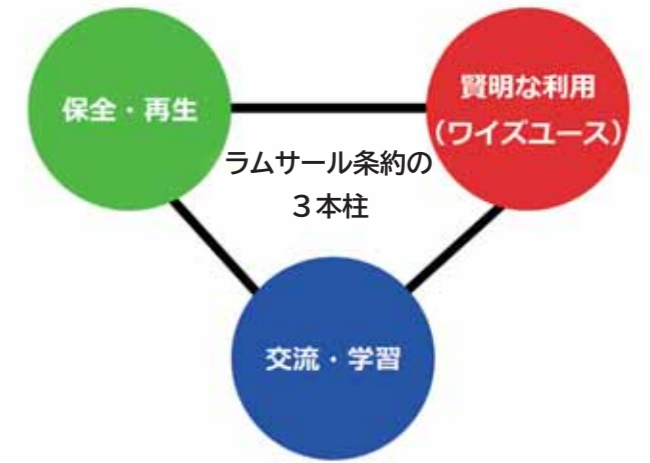
藻場は、海の生きものたちにとって、<sup>えさ</sup>餌を食べる場所として、隠れ家として、子育てを行うゆりかごとして重要な役割を果たします。また、藻場をつくる海藻自体も、ウニやアワビの大切な餌になります。藻場は生態系を支える縁の下の力持ちであるとともに、私たち人間にとっても豊かな恵みを与えてくれる大切な存在です。



マコンブ

アラメ ※1

タチアマモ



目標1

### 保全・再生

私たちの暮らしを支える重要な湿地の生態系を保全・再生すること。

目標2

### 賢明な利用(ワイズユース)

湿地の生態系を守りながら、湿地の恵みを大切にかつ賢く利用すること。

目標3

### 交流・学習

湿地を通じた学習・交流活動、広報・普及活動を行うこと。